

成長につなぐ — 事例17 ゴールズ&169ターゲット

225

ケイティケイ

使用済みトナーカートリッジの再利用(リユース)を手がけるケイティケイは、サーキユラーエコノミー(循環経済)に貢献する独自の顧客参加型プログラムを展開している。QRコードを活用したトナーサビリティ(履歴管理)により、顧客は廃プラスチック削減量や二酸化炭素(CO₂)排出量削減を数値で確認可能。使用済みカートリッジ

の活用を見える化し、顧客の持続可能な開発目標(SDG)に貢献を支援している。リユーストナーカートリッジは使用済みカートリッジを回収後、工場で分解、清掃し、トナーを補充して再利用する。必要な部品だけを交換することで廃棄物を抑え、再資源化や脱炭素が図れる。同プログラム「サステナブルパートナープログラム」



独自の顧客参加型システム「サステナブルパートナープログラム」のサイクル

リユーストナー 顧客参加の取り組み推進

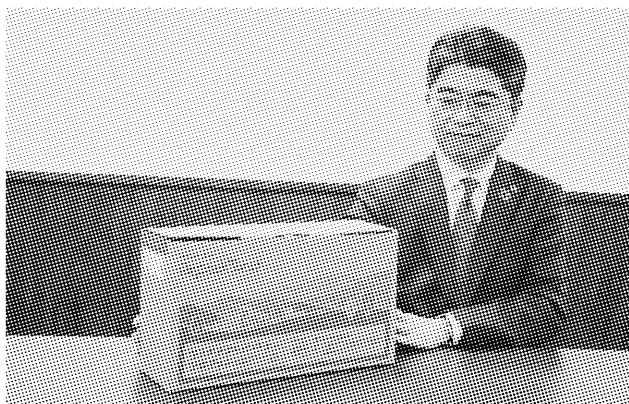
は、使用済みカートリッジの完全回収と資源の有効活用を目指す取り組み。リユーストナーカートリッジにQRコードを貼り、生産から出荷、回収までを追跡管理する。青山英生社長は「リユーストナーの循環型経済の実現は、使用済みカートリッジの確実な回収システムの確立が不可欠」と考える。

参画メリットも備えており、最大の特徴は環境貢献レポートの発行だ。同社算出に

によると、リユーストナーを1個利用することで約0.4kgの廃プラスチック削減、約0.8kgの実質CO₂排出量削減の効果が見込める。顧客はリユーストナーの購入、利用による環境貢献を数値で確認できる。このほか、同社のECサイトで文房具などと交換できるポイント付与のほか、自動在庫補充・返却手続きを簡素化し、返却・回収を促す。

回収システムの確立に向けて、同業者との連携も推進。同社とティエスジャパン(大阪府東大阪市)、原貿易(横浜市神奈川区)の3社は、2025年1月に連携協定を締結し、カートリッジの回収、再利用の課題解決に向けた仕組みづくりで協力する。

使用済みトナーカートリッジの回収システムの確立が不可欠...と話す青山社長



リユーストナーは従来、安価であることがメリットとしてされてきたが、ペーパーレス化など事業環境の変化に伴い、製品の価値のあり方も変わりつつある。